

## シンガポールの教育政策の過去・現在・未来 ～教育省ヘリテージセンター訪問～

シンガポール事務所

資源が乏しく、国土の小さいシンガポールでは、建国以来「人材こそ最大の資源」という国家観に基づいた教育制度を推し進めてきました。この度、シンガポールの教育の過去と未来を含む政策全般を見学できる施設、「教育省ヘリテージセンター（MOE Heritage Centre）」を視察しました。

### ○教育省ヘリテージセンターの概要

センターは、教育に携わってきた人々の教育への貢献をたたえるとともに、現在教育に携わっている人々に対して、教育の重要性の再認識と専門的スキルの向上を促す目的で設立されました。

郊外の住宅地である Commonwealth Drive にあり、元小学校の校舎を利用して 2011 年に開所され、19 世紀半ばから現在、そして未来に至るシンガポールの教育政策が一堂に展示されています。

入館料は無料ですが、ガイドツアーを予約することもできます。（有料）

元小学校の校舎を利用したセンター



### ○教育の歴史ツアー



ガイドツアーの様子

元教育省職員であったガイドの Ms. Gun の案内で、ツアーが始まります。展示室の入口は、過去から未来への教育の歴史を知る旅に、参加者が、あたかも船で出港するようなイメージで作られています。

ツアーでは、シンガポールも日本と同様、貧しい国だった時期から教育に力を入れてきていたことが分かります。教育予算が少なく、学校等の教育施設を十分に整えることができなかった時代から、教育の大切さを訴える人たちが寄付を募り、全国民が平等に教育を受けられるシステムづくりを進めました。また、中華系、マレー系、インド系など、

人種、言語、文化、宗教が異なる国民に、「シンガポール国民として統一した意識」を持たせるなどの教育政策に関する資料が展示されています。

## ○未来に向けて「Thinking Schools, Learning Nation」・・・

シンガポールの教育は、4つの柱を重点的に推進しています。

①Communication（コミュニケーション）

室内に掲げられている様々なメッセージ

②Innovation（革新）

③Curriculum（教育課程）

④Efficiency（効率）

児童生徒一人一人の能力を理解し、その能力を最大限に引き出すこと、そのために学校や教員は何をすべきかを、常にこの4つの柱において、考え、行動することが重要とのこと。

「現状に満足し、同じことを繰り返しているだけでは、日々変化している国際社会から取り残されてしまいます。常に未来を想像し、その未来に向かって考える力を養う教育を行う事が大切なのです」とガイドのMs.Gunが話してくれました。

ヘリテージセンター内に掲示されている言葉のひとつである「Thinking Schools, Learning Nation」は、ゴ・チョクトン前首相が1997年に国民に向けて発した言葉ですが、これは政府、企業、学校そして全ての国民や学習環境を整えていこうとするビジョンを示しており、教育が国の大きな柱であるというメッセージが伝わってきます。シンガポールの発展の歴史を教育という観点から探してみると、また新たな発見があるかもしれません。



（堀江所長補佐 栃木県小山市派遣）